

-13 降下魚への対応

魚道及び横断施設は魚の遡上のみではなく、降下にも配慮する必要がある。

にかりょうしゆくがわらせき

二ヶ領宿河原堰 ～水叩きの水深確保による落下衝撃の緩和～

地 域：東京都 多摩川 二ヶ領宿河原堰魚道（緩勾配水路式魚道 延長 83.3m、勾配 1/20、幅員 3.0m（右岸）5.0m（左岸）+ アイスハーバー式魚道 延長 83.3m、勾配 1/20、幅員 3.0m）

施 工 時 期：平成 11 年（事業者：国土交通省 関東地方整備局）

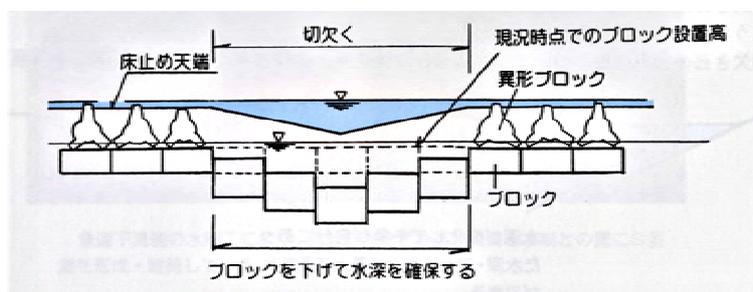
原理（考え方）：二ヶ領宿河原堰では、副ダムの設置によって堰下流の水叩きの水深を 30cm とし、降下魚の落下衝撃（堤体から降下した際に、下流の水叩きや河床に打ち付けられてダメージを被ること）の緩和が図られている。



出典）京浜河川事務所資料

【参考】

落下衝撃の緩和には、右図のように施設下流の水叩きやエプロンを切り下げ、水深を確保する手法もある。



出典）魚類のそ上降下環境改善上のワンポイントアドバイス

はたぜき
八田堰 ~全断面式魚道による落下衝撃の緩和~

地 域：高知県 仁淀川^{によどがわ} 八田堰（緩勾配水路式魚道、延長 62.6m、勾配 1/57.3～1/20、幅員 239.02m）

事 業 者：高知県

原理（考え方）：全断面式魚道は、横断施設全体が勾配を持った魚道のため、降下魚が堤体から垂直に落下することはないため、落下衝撃は緩和される。

特 徴 と 留 意 点：部分魚道に比べて施工費用が高く、可動堰には適用できない。



出典) 魚道事例集 魚がのぼりやすい川づくり